

(暫定値)であり、患者流出入で試算すると78.8である。病院での外来対応が極めて多いにも関わらず、外来医師偏在指標が低いのは、流出が極めて多いことによると思われる。また人口10万対診療所医師数は19.7で極めて少ない。課題として、医師の高齢化、二次医療機関の初期救急医療（市立根室病院、町立中標津病院）に対する負担の軽減、市立根室病院および町立中標津病院しかない在宅療養支援診療所ならびに在宅療養支援病院をいかに増やしていくかが挙げられる。

20) 北渡島檜山圏域：八雲町を中心とする圏域である。『医師偏在指標』は114.8である。外来自給率は76.1%で、外来患者の対応割合は診療所が25%であり、南檜山圏域同様ほぼ外来患者は病院を受診している。圏域内の診療所に従事する医師7名のうち71%（5名）は60歳以上が占める。『外来医師偏在指標』は65.9（暫定値）である。根室圏域と同様に、病院での外来対応が極めて多いにも関わらず、外来医師偏在指標が低いのは、流出が極めて多いことによると思われる。最も大きな課題は人口10万対診療所医師数が19.4と圏域内の医師数が極めて少ない（全道で最低）ことである。この圏域では全医療機関14（病院7・診療所7）のうち、10施設（病院6、診療所4）が在宅医療サービスを実施しているが、在宅医療を担うスタッフが不足しており、マンパワーの確保が課題となっている。

21) 宗谷圏域：稚内市を中心とする圏域である。『医師偏在指標』は107.9であり、全道で最も低い。外来自給率は86.3%で、外来患者の対応割合は診療所が35%である。圏域内の診療所に従事する医師15名のうち53%（8名）は60歳以上が占める。『外来医

師偏在指標』は62.1（暫定値）であり、患者流出入で試算すると77.3である。北渡島檜山・根室圏域と同様に、病院での外来対応が極めて多いにも関わらず、外来医師指標が低いのは、流出が極めて多いことによると思われる。さらに人口10万対診療所医師数は23.1で極めて少ない。この圏域の最も大きな課題は、医師など医療従事者が少ないこと、二次救急医療機関である市立稚内病院が、初期救急医療も担っていることが挙げられる。

### 【おわりに】

外来医療計画が話題となった当初、これは開業規制ではないかとの懸念が示された。今もってその懸念は消えていない。日本医師会は、日本医師会代議員会や定例記者会見を通じ、開業規制ではない旨を広報している。昭和56年には医師会、特に地区医師会の適正配置の考えに対し、公正取引委員会が独占禁止法に抵触する恐れがあったとした。この医師会の考えに厚労省がお墨付きをくれたと理解し、有効に活用してはいかかと思われる。

外来医師偏在指標には、広域であり、医療機関へのアクセスが悪いことや、診療科目が考慮されていないのご指摘もある。診療科目による偏在は、医師の専門とする領域があまりにも細分化され、また診療内容と異なることもあるため、それを基に外来医師偏在指標を決定することは極めて困難と思われる。

なお、令和2年2月23日（日）の「令和元年度病院管理研修会」（主催：当会・北海道病院協会）では、「外来医療計画」ならびに「医師確保計画」をテーマに開催する予定なのでぜひご参加いただきたい（詳細は道医報第1216号・令和2年1月号附録をお待ち願いたい）。

## 「医師資格証」を持ちましょう

診療情報提供書等へのHPKI電子署名に対応しています



<問い合わせ先>

北海道医師会 事業第一課

TEL 011-231-7661

<http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/credential.html>

日本医師会電子認証センター

<http://www.jmaca.med.or.jp/>

『医師資格証』はHPKI(保健医療福祉分野公開鍵基盤)の枠組みを使った日本医師会認証局が発行する医師資格を証明するカードです